

令和4年度第7回美濃市公共交通活性化協議会

(会議録)

■会議の日時及び場所

<日時>

令和5年2月24日(金)午後2時00分～午後3時30分

<場所>

美濃市役所4階合同委員会室

■出席した委員及び説明のために出席した者の職、氏名

<出席した委員>

委員 18名

委員 5名欠席

<説明のために出席した者の職、氏名>

美濃市総務部総合政策課 課長 宮田敏生(事務局)

美濃市総務部総合政策課 課長補佐 篠田啓介(事務局)

美濃市総務部総合政策課 主事 末松和也(事務局)

■議事の件名及び経過の要点

議題

(1) 美濃市地域公共交通計画(案)について

各委員からの意見

- ・ 計画案に記載してあることは納得できるものだが、現実実施しようとするといろいろな課題が出てくるだろう。民間事業者においては、現状を維持できるのか。行政が支援しなければ、既存路線が廃止されるおそれもある。国や県にしても、そこまで財源的にやっていけるのか。簡単ではないと思うが、どのようにしたら公共交通を守れるのか、それは住んでいる人が安全で安心でき、岐阜県や美濃市に住み続けられるのかということにつながる。
- ・ タクシー事業は、コロナ前までに回復するにはまだ時間がかかる状況である。
- ・ 資料に「自家用有償旅客運送などへの切り替え」とあるが、どのように切り替えるのか。美濃市に必要なのか。
→現時点でタクシーの運行等が市内全域に行き届いている状況なので、美濃市に必要なかどうかも含めて検討していければと思う。（事務局）
- ・ できるだけ民間の力を借りたい。行政が制度を準備したうえで、人件費を負担するなど、財政やシステムを含めて、行政ができることは何かを考えていく必要がある。
- ・ デマンドタクシーが課題になっているのは、運行が 8～18 時となっているため、夜中や緊急の移動の際に対応できないことである。
- ・ 資料に「タクシーについては小回りの利くドア・ツー・ドアの交通手段として市内で事業が持続できるよう活用策を検討し、支援します」とある。しかし、夜市内に出たら、帰りの足がなかなか得られない。また、観光客もタクシーの運転手らしい恰好をしないと不安がる。夜は電話だけ出て、緊急の場合は配車するなどの工夫をして、市全体で盛り上げていく必要がある。
→運行時間外への対応について、現時点でこれといった規制緩和等の予定はない。定められている中で実施していくしかないかと思う。他の市町村では特例で、夜間のタクシー事業者がいない地域へ隣の区域からタクシー事業者に来てもらうということを公共交通会議で議論してやっていることはあるが、なかなか対応が難しい。全国的にタクシー事業者の運転手不足が進んでいるということも考えても難しいのではないかと。（岐阜運輸支局）
- ・ タクシー運転手の労働時間や最低賃金の問題もある。1 台運行するには 2 人分の最低賃金が必要である。（利益を出すには）それ以上の売り上げが必要である。
- ・ タクシーを他の圏域からもってくるのは難しいが、タクシーをどのように盛り上げていくかという視点を持つのは非常によい流れである。二種免許の支援のところにタクシー事業者も含めて、公共交通事業全体として盛り上げていくことが必要かもしれない。のり愛くんの役割が明確になれば、タクシー事業者の負担を軽減して、バス事業者等が夜間に運行することも一つの手である。
- ・ 労働時間の問題もあるが、タクシーは運行しない空白時間が多い。赤字なら運行したくないのが本音である。そこに市が補助金等を出して補助・補完するなど、ドライバーが納得する話し合いの場を設けるべき。
- ・ 美濃病院から帰宅する際に、1 時間半待ちの高齢のご婦人がいらっしやう。夕方の寒い中、どこで待つのか。できるだけ待ち時間をなくす方法を検討していきたい。3 月 4 日の大矢田トンネル開通とともに新しい方法を考えていくのはどうか。

→ご意見をいただければ、必要なら他の事業を削ってでも予算措置することも考えられる。そういった点から考えても、公共交通協議会の場でご意見や想いを話していただきたい。（会長）

- ・「車が使えなくなれば、公共交通を利用したいと考える人が多い」とあるが、現実的には使わなくなってからでは遅い。2024 年問題に加え、二種免許取得者の減少などの問題はサービスの低下につながる。岐阜新聞 1/28 掲載の記事で紹介されている調査では、公共交通の重要性に関する文章を読んでもらうことで、利用回数や金銭負担を増やしても良い等、前向きな考えを持った人が全体の 4 分の 1 程度いた。乗れなくなった後ではなく、乗れなくなる前に公共交通を使う重要性・意識づけをレクチャーし、危機感を持ってもらえるようなセミナー等の開催ができないか。
- ・実施事業の評価方法について、国としても標準指標があり、その中に公的負担額がある。目標 3 の中で利用者数だけでなく、公的負担額も指標に入れていただきたい。
- ・現在、美濃タクシー所有の車で運行しているが、市所有の車でデマンド運行はできないか。美濃タクシーや第三セクターに任せきりになっていないだろうか。時間外は市で運行できるのではないかと。→市が予算を確保し、委託業者に払えば可能だが、財政的に難しい。極端な話今の財政を倍にすれば、できるかもしれない。（会長）
→会長の言われるとおり、予算があれば可能である。とはいえ、人の命を預かっているため、予算があるかないかというよりは、必要最低限な運行は、他の予算を削ってでもやっていただきたい。（観光協会）
- ・デマンドについて、必ずしも 100 円にこだわる必要はない。200 円・300 円払ってでも早く来てもらい、移動したいと思う人もいる。小さな意見をしっかり聞いて、デマンドも予算を確保していただきたい。
- ・免許を持たない 10 代等若い方は、不便を感じていると思う。例えば、通学である。せっかくニーズを把握しても、具体的な方策につながっていないと感じる。
- ・地方では、自家用車なくして生活できない。はたして、行政から運転免許証の返納を推奨するのは正解なのか。返納の推奨ではなく、安全に運転できるようにするのがよいのではないかと。
- ・せっかく調査をしてニーズの把握をしているにもかかわらず、現時点の案ではニーズに対応できていないのであれば検討すべきである。
- ・運転免許証の返納は、私はあまり推奨していない。元気で自身で外出し続けてくれればよい。ただ、本当に運転できない人に対してはどう支援するのかというのがこれからの課題だ。
- ・委員の方々から様々な意見をいただいて、どの点が一番重要か、今後どうすべきかを定めることは本当に悩ましいところであるが、その理由は美濃市の目標・方向性が見えないからであると思われる。
- ・のり愛くんは朝の予約が取りにくい点が協議会でも何度も言われている。この点について、市としてどのように検討しているのか。朝だけは大きな車両を使い、ピストン運行するといったことも考えていかなければならない。

→「予約の電話すらつながらない」という声もある。今年度運行体系の見直しとして、電話のみならずインターネット等での予約にも対応したシステムを導入する。これにより、運行データ等も収集できるようになるので、そのデータをもとにご指摘の朝のピストン運行、運行体系の見直しも来年度以降に検討していきたい。（事務局）

- ・今挙げられている事業がバラバラな印象を受ける。一つひとつの事業に、もう少し課題や目標を紐づけて検討していく必要がある。
- ・周知の方法として、チラシだけでは限界があり不十分である。利用を促すため、地区別に利用を促す機会の創出なども実施事業として検討していただきたい。
- ・免許証返納は公共交通だけの問題ではない。生活（利便）施設にもかかわってくる。立地適正化計画等の様々なまちづくりに関する上位計画と連携していく必要がある。

○委員出席者（18名）

区 分	所 属 名 及 び 役 職 名	氏 名
市長またはその指名する者	美濃市 市長	武藤 鉄弘
一般旅客自動車運送事業者およびその組織する団体の代表者またはその指名する者	岐阜乗合自動車株式会社営業管理部 交通政策担当	宮部 敬輔
	公益社団法人岐阜県バス協会 専務理事	木村 治史
	美濃タクシー株式会社 代表取締役	長瀬 輝彦
	長良川鉄道株式会社 専務取締役	坂本 桂二
住民または利用者の代表	美濃市連合自治会 会長	小林 隆男
	美濃市社会福祉協議会 会長	柴田 徳美
	美濃市ボランティア連絡協議会 会長	長尾 瞳
	美濃市シニアクラブ連合会 会長	村井 安實
	美濃市観光協会 会長	担野 隆晃
国土交通省中部運輸局岐阜運輸支局長またはその指名する者	中部運輸局岐阜運輸支局 首席運輸企画専門官	渥美 宏
一般旅客自動車運送事業者の運転者が組織する団体の代表者またはその指名する者	岐阜乗合自動車労働組合 執行委員長	正村 明
国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所長またはその指名する者	中部地方整備局岐阜国道事務所 計画課長	(代理出席)
岐阜県美濃土木事務所長またはその指名する者	岐阜県美濃土木事務所 道路課道路調整監	内川 靖
岐阜県都市建築部公共交通課長またはその指名する者	岐阜県都市建築部都市公園整備局公共交通課 課長	(代理出席)
市長が交通会議の運営上必要と認める者 (学識専門者、行政関係)	大同大学工学部建築学科土木・環境専攻 准教授	樋口 恵一
	美濃市 総務部長	瀧瀬 敬久
	美濃市 建設部長	伊藤 篤